

2021 年度 第 18 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※まもなく迎える定年後の働き方について、再雇用制度を利用せずに退職し、別の仕事に就こうと考えていたものの、いざ施設訪問すると心が揺らいでしまったというケースです。「セカンドキャリアビジョン」がテーマとなりますね。ただ、どのような仕事に就くのかということが芯になるのではなく、どういった働き方を望んでいるのかが中心となるテーマになります。つまり、仕事・職務内容理解というよりは、「自己理解」がカギになります。キーワードは、「会社に貢献してきた」「やりがい」「何かしっくりこない」「その言葉が引っかかって」「期待に応える」などです。

【問い 1】 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の 5 つの語句を使用して解答欄に記述せよ (同じ語句を何度使用しても可。また語句の使用順は自由。解答用紙に記述する際には、使用した指定語句の下に必ずアンダーラインを引くこと)。

(15 点) 6 行

指定語句

先入観	ものの見方	助言	共感	自問自答
-----	-------	----	----	------

事例Ⅰでは、「何かしっくりこなくて」という相談者の感情を受容、共感することなく、「～は大きな挑戦」「そんな時は不安になる」などのように CCT の 先入観により助言するため相談者は納得できず、「でも…覚悟はできているつもり」と抵抗している。その上、今までの経験を活かし、再雇用を再考することを勧め、問題解決につながっていない。一方事例Ⅱでは、「やりがい」に注目しこれまでの働き方について自問自答することで、他の人からの期待に応えるために働くことが良いと思ってきたものの見方に引っ張られている自分がいることに気づき、今までにとらわれない新たな働き方を見出し、問題解決に向かう展開となっている。

(6 行)

【問い 2】 事例Ⅰの CCT7 と事例Ⅱの CCT10 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(10 点) 2 行 × 2

事例Ⅰ CCT7 相応しくない

CL7 での「何かしっくりこなくて」という相談者の感情を受容、共感することなく、CCT の主観や価値観に基づき「～は新しいことへの大きな挑戦で不安になる」と断定したため、相談者の感情に齟齬が生じている。

事例Ⅱ CCt10 相応しい

CL8～CL9での相談者の発言を整理し要約して伝え返していくことで、「期待に応えることがモチベーションになっていた」と振り返り、自ら「しっかりこない」原因が何かについて気付きを促す応答になっている。

【問い3】 全体の相談者の語りを通して、キャリアコンサルタントとして、あなたの考える相談者の問題と思われる点を、具体的な例をあげて解答欄に記述せよ。(15点) 5行

定年退職後の働き方について、「新しい環境に入る覚悟はできている」と言いつつも、「これまでの自分を一旦置いて」と言われモヤモヤしてしまうなど、過去の働き方にとらわれていてキャリアビジョンが明確でない。また、再雇用について上司等から情報を得ることもせず、相談もせず、「もう会社に頼りたくない」と一人で悶々と考え立ち止まっていること。さらに、「新しい自分をスタートさせて」と言われたことが引っかかり、「来ることを期待されているわけではない」と思い込み、退職後の働き方についてモヤモヤしていること。

【問い4】 事例Ⅱのやり取りの後、あなたならどのようなやり取りを面談で展開していくか、その理由も含めて具体的に解答欄に記述せよ。(10点) 6行

定年退職後の働き方として、障害者支援の仕事にやりがいを見出し役に立ちたいと考える姿勢を支持し、労う。その上で、まずは再雇用について上司や人事などから情報を得るよう促す。また、再雇用と他社への再就職について、メリットデメリットを上げ比較してみてはどうかと提案する。さらに、自身の希望する障害者支援の仕事について、NPOの友人等から詳細について情報収集してみるよう提案する。そうすることで、今までの働き方にとらわれず、新たなことに挑戦でき、また、他者からの期待に応えるために働くのではなく、自らが主体的に再就職についてやりがいを持ち働いていけるよう支援する。